

オピニオン



愛知淑徳大学
ビジネス学部准教授

三矢 幹根氏

オリエンタル
カレッジ

少子高齢化がますます進行する日本では、現役世代が退職世代を養う現在の年金制度は今までは維持できない。年金給付開始年齢を引上げるか給付額を減らす

か、あるいはその両方が必要となるだろ。その一方で人の寿命はどんどん長くなっている。多くの人は退職後わずかな年金だけで85歳や90歳まで生活していくのは金銭的にとても困難となることを知るだろ。老後の生活で学校教育では教えてくれなか。
間と労力を企業などの雇い主に提供する見返りにお金を得ることしか思いつかないが、定年退職後の高齢者ではそれは難しい。しかし、お金を得る方法は本当にそれだけだろ。

実学の株式投資技術の必要性

足するお金はどこへすればよいのか。実は、老後に限らず生涯のどこかにかかる。もし、この解決策が分かれば、老後の生活を少なくともお金の面で心配することができる。高まる高まるであろう。殆どの人は、生活の糧を得るために「就職」して働くつまり、時にお金を稼がせるのである。

知恵と技能が年金不足補う

そのためには金融リテラシーを高めることは必須条件だが、これも学校教育では殆ど教えてくれない。しかし、金融リテラシーを高めたとしても、それだけでは不十分である。株式投資はビジネスである。知識を得たからと言って、だけで必ず成功できるほど甘くはない。株式投資で成功するためには、絶対に必要なことがある。それは「知識」と知識を適切に実践できる「知恵」と「技能」が融合した投資「技術」の習得である。

実際、株式投資で成功し続けるのは難しい。個人投資家は投資といいながら実は期間がもつと短い「トレード」を行

っている。おそらく10人中8人は通年で損をしていると推定されるが、その原因は単純明快である。多くの投資家は銘柄選択を間違えるから損をする。すると錯覚している。その結果、四六時中、銘柄選択に大きな時間と労力をかけている。しかし、株式投資（トレード）で損をする本当の原因是銘柄選択の誤りではなく、単に売りと買いを間違えただけのことである。売りと買いたさえ間違えなければいい銘柄を手掛けても儲けることができる。

殆どの投資家は株式投資と相場で買いポジションを持てば損をするのは当然である。下げ相場ではまだ売りポジションから始め、下げ切ってから買い戻して利食い、ここでも初めて買いポジションを取るのが正解であり、これができないことが「技術」である。個人投資家が常に考えるべきは、今どの銘柄を買うかではなく、相場全体と対象銘柄は上げ相場なのか下げ相場なのか、とこり相場の大観察であり、実際に習得すべきは相場の波に乗る「実学」たる株式投資技術なのである。